

# 自分の立ち位置をしっかりと見極めて 銀河万丈さん



## YAMANASHI People 甲斐のひと、インタビュー

銀河万丈 (ぎんがばんじょう)  
声優・ナレーター。11月12日生まれ。甲府市出身。山梨県立甲府南高等学校卒業。劇団テアトルエコーを経て、現在は株式会社青二プロダクション所属。主な出演作品は、アニメ『機動戦士ガンダム』ギレン・ザビ役、洋画『ランボー』シルベスタ・スタローン、TX系『開運！なんでも鑑定団』ナレーション。

## 声

優として、またナレーターとして活躍中の銀河万丈さん。低音で迫力ある声を活かした悪役やアクション俳優の吹き替えが多いが、役柄のイメージとは違って、本人はとても穏やかな紳士だ。

銀河さんは甲府市出身。県立甲府南高等学校の2期生である。エンジンニアだった叔父さんの影響で同じ道を志していた銀河さんは、機械操作やラジオに興味をもち、放送部に所属。しかし入部後はラジオドラマの魅力に取り付かれた。

「音の中から世界観が広がり、想像力をかき立てられるおもしろさがあった」とその魅力を振り返る。

ラジオドラマへの興味は大学進学後も変わらなかった。高校時代は理系の専攻だったが、大学は成蹊大学文学部文化学科思想史を選択。しかし熱中していたのはやはり、所属していた放送研究会だった。

## ふれあい

卒業後は、演技全般を勉強したくて、劇団テアトルエコーに入団。その後、銀河さんが声優を職業と決めたのは三十代前半だった。

アニメの声優を始めたころ、自分自身のセールスポイントとして「何でもできます」ではなく「悪役

ができます」という看板を掲げた。そのころに演じた機動戦士ガンダムのギレン・ザビ役では、「悪役を演じることで、自分自身の中に新しい自分を捜してゆくことや演じる快感を覚えた」という。役者になる意識よりもいろんな好奇心から将来の方向を絞りきれず劇団に入団したが、仕事として与えられた場から、自分自身の本当にやり



たいことを見出していったという。「いまの日本は社会的にも物質的にも豊かな国。若い人たちもやりたいことができる土壌が整っている。だけどやりたいことを押し通すということは、社会の規範とは多かれ少なかれズレが生じてくるもの。自分の立ち位置をしっかりと見極めて、自分自身で作りたいかかなければならないんじゃないかな」と語る銀河さん。

ないかな。そう語る銀河さん。声優やナレーターという仕事柄、ことばや日本語について考える機会も多く、「自分自身が発したいことばの音を、探してゆきたい」という銀河さんの思いは、毎月第三日曜日に行われる朗読会という形で実現されている。ここんべんという読み語りの会では、銀河さん自身が「題」を選出する。いろ



いろな著者の文章を銀河さんやゲストの方が、おのおの解釈で朗読するのだ。解釈・読み方・アクセント・陰影により、活字の言葉にも生命が吹き込まれたように生き生きと聞こえてくる。ここんべんという名前は、言(こと)んべんの隣に文字を当てはめるといろいろな漢字が出来るように、会(かい)いろいろな人が参加することばの様な

## GINGA BANJYO

相も変わってくるおもしろさを表現したものだ。

「近すぎて、いつでも帰れると思うから、ついつい足が遠のいてしまっている」という山梨だが、正月には実家に戻り、家族と顔を合わせている。「帰ってのんびり過ごしたい」という思いもある反面、様変わりする駅周辺や増える住宅を見ると、「違う時間が流れてしまったようでもう戻れないかもしれない」という。しかし都心部では見られなくなった隣近所とのネットワークを感じるという銀河さん。「顔が見えてつながるコミュニケーションは、コンピューターネットワークにはない、社会本来の在り方のようにも思う」山梨に居たときには隣近所とのつながりをしがらみに感じ、飛び出したくて仕方なかったが、離れて過ごした時間があつたからこそ、いまは客観的に見られるという。

「今後は肩の力が抜けたようなふわふわした役を演じてみたい。穏やかな口調の向こうに、声優として一つの時代を築き上げた職人としての氣質がうかがえる。新たなイメージの声優銀河万丈に出会える日も近いかもしれない。」